

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第4部門第1区分

【発行日】平成27年11月12日(2015.11.12)

【公開番号】特開2015-169014(P2015-169014A)

【公開日】平成27年9月28日(2015.9.28)

【年通号数】公開・登録公報2015-060

【出願番号】特願2014-45291(P2014-45291)

【国際特許分類】

*E 01 C 19/34 (2006.01)*

【F I】

E 01 C 19/34 A

【手続補正書】

【提出日】平成27年9月23日(2015.9.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

図7に示す従来の起振軸カバー42は、起振体2のハウジング2aに取付けているので、起振体2の振動に伴って振動する。このため、起振軸カバー42には高い剛性が要求されると共に、ハウジング2aに強固に固定する必要がある。この起振軸カバー42は、ベルトカバー20の内側カバー21との接触により摩耗するため、定期的に交換する必要があるが、前述のように、起振軸カバー42は剛性が高くかつハウジング2aに強固に固定するため、交換が容易ではないという問題点がある。また、起振体2が振動しても、内側カバー21の開口部21bが露出しないようにするために、起振軸カバー42は内側カバー21の開口部21bより振動分を考慮した半径方向の幅t×だけ大きな径を確保しなければならず、起振軸カバー42が大型になるという問題点がある。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0032】

この構成において、ベルト13の交換が必要となったときには、ボルト28, 30を外すことにより、外側カバー22を内側カバー21およびエンジンベース3から取外す。そして、転圧板1の前端部を地面に着け、後部を浮かした状態でハンドル16を押し下げるに、転圧板1とエンジンベース3との間を結合している防振ゴム7が撓むことにより、駆動ブーリ11と従動ブーリ12との間の距離が短くなり、ベルト13が弛んでブーリ11, 12からベルトを取り外すことができる。また、新品のベルト13を取付ける場合も、前述のように転圧板1の後部を浮かした姿勢としてブーリ11, 12に掛け回す。このように、ベルト13の交換の際には、内側カバー21をエンジンベース3に取付けたままで、外側カバー22を着脱するだけでベルト13の交換ができる構成となっている。